

抗うつ薬

適応：うつ病、疾患によらずうつ状態、強迫症状、パニック発作、フラッシュバック、過食症

作用機序：セロトニンとノルアドレナリンの再取り込みを阻害し、濃度を上昇させる（セロトニン仮説）

副作用：口渇・便秘・排尿障害（抗コリン作用：三環系抗うつ薬）、吐き気・頭痛（SSRI）
選択的セロトニン再取り込み阻害薬）

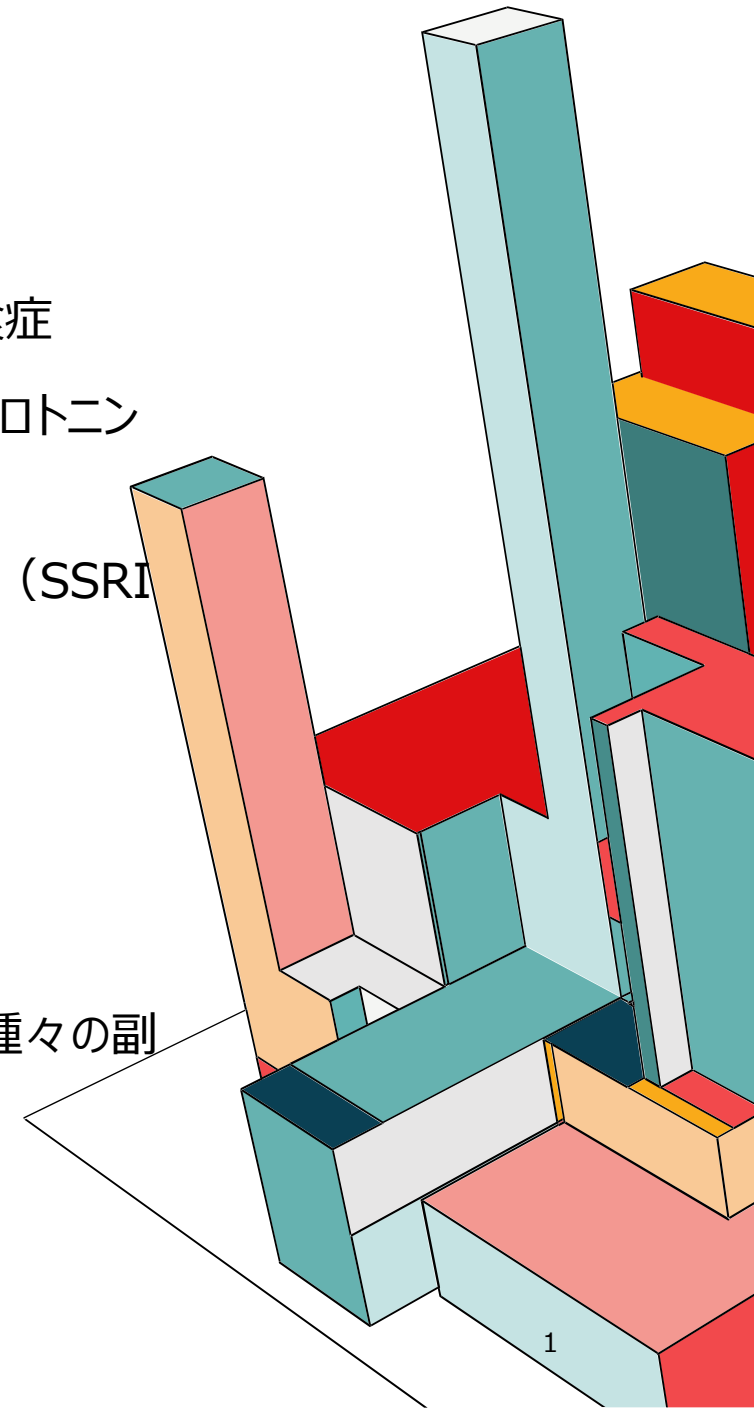
種類

・SSRI：セロトニンの再取り込みだけを阻害する。副作用が全般的に少ない。

例：パロキセチンなど

・三環系抗うつ薬：化学構造に3つの環構造を含む古くから使われてきた抗うつ薬。種々の副作用。

例：イミプラミンなど



抗躁薬、気分安定薬

抗躁薬・気分安定薬≠精神安定剤（俗称で向精神薬または抗不安薬・睡眠薬を漠然と示す）

適応：躁状態、双極性障害、非定型精神病（統合失調感情障害）などの気分変動を来たす疾患

副作用：中毒症状（意識障害、けいれん、不随意運動など）＊特にリチウム中毒は有名

例：リチウム、バルプロ酸など

＊バルプロ酸はもともと抗てんかん薬

